

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②施設・事業所情報

名称：海老名市障害者第二デイサービスセンター	種別：障害者多機能型事業所 (生活介護、就労継続支援B型)
代表者氏名：星 伸一	定員(利用人数)：40名(20名、20名)
所在地：〒243-0403 海老名市望地2-24-1	
TEL：046-233-0333	ホームページ：http://hoshiyakai.com/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：1994年4月1日	
経営法人・設置主体(法人名等)：社会福祉法人星谷会	
職員数	常勤職員：6名 非常勤職員 7名
専門職員	サービス管理責任者 1名 社会福祉士 1名
	強度行動障害研修修了者 5名 精神保健福祉士 1名
施設・設備の概要	作業室2、多機能型個室3
	相談室1、和室静養室1

③理念・基本方針

<p><法人の理念></p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の個性を輝かせるために ☆ノーマライゼーションの理念の実現 ☆地域福祉の充実 ☆人権尊重と利用者主体の支援 ☆質の高いサービスの提供 <p><職員行動指針 支援の実践にあたって></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者主体の支援「本人の力、ストレングスを信じて、一人の人として」 ・自己決定・意思決定支援「職員の価値観、一方的な見方ではなく」 ・コミュニケーション「情報交換、話しあい、一緒に考えたい」 ・プロフェッショナル「利用者はサービスのユーザー、心地よいサービスをめざして」 ・自己研鑽「振り返り、向き合う、予測と意識」 ・ゆとりを持つ「冷静に、丁寧に」
--

④施設・事業所の特徴的な取組

<p>○利用者一人ひとりが楽しく主体的に、自主性をもって過ごせるよう支援している。月1回開催する利用者自治会では、日中活動や作業のこと、行事について、利用者が意見を交わしている。夏の大きなイベントの「かっぱ祭り」や、1月の餅つき、日帰りや一泊旅行の企画などを、自分たちで決めて楽しんでいる。職員は利用者のペースを尊重するよう心掛けている。言語的なコミュニケーションだけでなく、視覚的なアプローチを活用して、利用者の理解に取り組んでいる。利用者から「かっぱ堂に来てよかった」と感じてもらえるよう工夫している。</p> <p>○市社会福祉協議会や、地域企業の新公建設と連携し、畑での野菜作りを行っている。畑仕事は、市社会福祉協議会の協力で、ボランティアの指導を受けている。収</p>

穫した作物は子ども食堂に提供している。また、地域に向けて販売し、地域の方に喜んでもらっている。地域企業の新公建設からの委託金は、野菜の苗や種の購入や、利用者の工賃に充てている。「食と職 海老名笑顔化計画」に2年前から取り組み、活動の内容をかながわ福祉サービス大賞で発表し、食と職がつながり、笑顔が増えたとして、優秀賞を受賞している。食と職をつなぐ独自の活動は、利用者の励みにもつながっている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年6月1日（契約日） ～ 2023年2月16日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2016年度）

⑥総評

◇事業所の特色や努力、工夫していること、事業所が課題と考えていること等

○海老名市障害者第二デイサービスセンター（かっぱ堂）は、市の指定管理を受け、知的障害者や発達障害者、精神障害者を対象に、生活介護事業と就労継続支援B型事業を提供している。利用者は、1、2階のフロアに分かれ、作業や余暇活動に取り組んでいる。

○言語でのコミュニケーションが可能な利用者もいるが、言葉が不明瞭な方、耳が不自由な方、言葉が不自由な方など、さまざまな利用者が活動している。利用者一人ひとりの状況に応じて、本人用のボードを使っての会話、絵カードや筆談による会話を行っている。言葉が不自由な方には、職員のアプローチに対する反応をよく見て代弁し、本人の意思を確認している。

○意思表示が困難な利用者は、日頃から表情や小さなサインを見逃さないようにしている。また、家族から情報を聴き対応している。言葉の表出が可能な方には、皆の前で本の読み聞かせを行ってもらったり、カラオケで歌ってもらう機会を作っている。最新式のカラオケ機器の使用を楽しみにしている利用者も多い。

○集団での活動が苦手な方のために個室を3部屋用意している。利用者は集団での活動では落ち着かない方が多く、作業室内もパーテーションで区切り、落ち着いた空間で作業に集中できるようにしている。

○利用者が本人の望む本人らしい生活を送ることができるよう、本人のニーズや興味、趣味、考えなどを把握し、また家族から情報を入手して、個別支援計画を作成している。意思表示が難しい利用者も多く、水彩画や缶バッチ作り、ユーチューブ、ゲーム、ペンダント作成、カラオケ、散歩やイベントなどを用意して、利用者が自分で好きなことを選ぶことができるよう取り組んでいる。

○畑仕事やタオルたたみ、チラシ折り、空き缶回収などの作業があり、利用者は朝の会で、その日何に取り組むか自分で決めている。利用者は、作業内容のボードに、自分の名前の札を貼っている。職員は常に声掛けし、コミュニケーションに心掛け、見守りながら支援している。

○昼食は利用者の好みに応えられるよう、注文弁当業者2社を活用している。カロリー控えめのヘルシー弁当を注文したり、嚥下に課題がある方には職員が刻み食にしたり、ご飯を弁当からではなくお茶碗に盛り直して食べやすくしたりして、利用者個々に対応した食事を提供している。また、畑で収穫したサツマイモを、焼き芋にして楽しんだりしている。

○1、2階の廊下や階段、玄関には、楽しかった行事の写真や、利用者の描いた額に入った水彩画、季節の装飾品が飾られている。廊下にはソファを置き、職員とのんびり話をしている姿も見られ、利用者にとって安心した居場所となっている。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価をして頂く中で、今までの事業を改めて振り返る事もでき、取り組んできた成果や継続課題・新たな課題も知る事が出来ました。

評価を結果としてでなくスタートとして受け止め、利用者さんにとってより良い事業所にしてまいります。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり